

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
96	川崎市立 三田小学校	上杉 忠司

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<みたやかた> ○みんなであつろう たのしい学校 ○みんなであめざそう やさしく かしこく たくましく	○子どもの主体性を大切にした特別活動 ○学び合いを通じて思考力を高める授業づくり ○情報発信と安心・安全で信頼される学校づくり	○三田小学校の特色づくりと発信(たのしい・やさしく) ○学び合いを通じて深い学びを目指す授業づくり(かしこく・たくましく) ○校舎再生整備第Ⅱ期工事と教科担任制モデル校の推進

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
たのしい やさしく	1	人権教育を基盤とした一人ひとりを大切にしたい教育を推進する。	○通級の巡回指導の試行を順調に実施できた。 ○全国調査において「先生は良い所を認めてくれる」107%「自分には良い所がある」113%と全国に比べ高い数値になった。	○取組の継続。
	2	不登校・行き渋り支援体制を強化する。	○2週間に1回支援会議を開き、早期対応・チーム支援を実施した。○非常勤講師による登校支援・別室でのSSTやコミュニケーション指導を実施。	○今年度の取組をしっかりと引き継ぎ定着させる。
	3	豊かな感性を育むため、読書活動や音楽教育を充実させる。	○図書司書と図書ボランティアにより本の紹介等の充実を図った。朝の読み聞かせや読み聞かせ会を実施した。○自主参加の音楽集会の実施。	○読書量の少ない児童へ重点的に本の楽しさを伝える工夫を検討する。
かしこく たくましく	4	理科が好きな子、ICT活用能力の高い子を育てる教育を推進する。	○理科専科により実験・観察が充実し、市調査で4・6年「理科が好き」が全国より高い結果になった。 ○全国調査で「授業でのICT活用」が133%と高い結果となった。	○授業に効果的なGIGA端末の活用方法を職員で共有するミニ研修を実施する。
	5	◎子ども同士のつながりを通じて深い学びをめざす。	○算数科の校内研究を通じて学び合いの授業を全校でめざす。○課題設定の工夫や話し合いの工夫により教科・領域の見方を働かせ思考力・判断力・表現力を高める。	○全国や市の学習状況調査の思考力・判断力に関する得点が、引き続き全国に比べ高くなるよう努める。
	6	カリキュラムセンターの整備と効果的な活用を図る。	○カリキュラムセンターの整備計画を作成し、職員での整理を実施した。○まだ、効果的な活用までには至っていない。	○第Ⅲ期校舎再生整備においてカリキュラムセンターを効果的に活用できるよう計画的に校具・備品購入を行う。
安全安心	7	児童・職員の負担軽減を図り、校舎再生整備第Ⅱ期工事を遂行する。	○効率的な引越計画に基づき引越しを実施する。 ○工事に合わせ行事やカリキュラムを見直す。	○第Ⅰ期・第Ⅱ期の経験を活かして、児童・教職員に負担とならない校舎再生整備第Ⅲ期工事や引越しを遂行する。
	8	働きがいの醸成と教科担任制・事務支援により働き方改革を推進する。	○全校で初任者のサポート体制をとる。 ○教科担任制により教材準備の負担を削減する。 ○事務支援員の効果的活用を図る。	○職場のストレスチェックの結果より、「職場の支援判定81.6」「総合健康リスク83.8」と国や市の平均に比べ良好な結果となっている。○時間外80時間超の減少。 ○職場のストレスチェック結果において、引き続き総合健康リスクが国に比べ低くなるよう努める。○時間外勤務時間が月80時間を超える職員ゼロをめざす。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<学学習状況調査等>授業づくりは、「対話力」「思考・判断」の結果から効果を上げている。<学校保健委員会>感染防止の取組は評価を受ける。歯科検査結果から、歯科校医による歯磨き指導を実施。<学校評価アンケート>授業参観における話し合い活動について評価される。「子どもの困りごとに、家庭と学校が連携して問題解決に取り組んでいる」と89.5%の保護者から評価される。<学校教育推進委員会>授業参観にて対話を大切にし思考力・判断力・表現力を高める取組について評価される。読書の大切さを確認し本を読むためのアイデアをいただく。	○学校教育目標に基づく学校運営を目指して3年目になる。全ての児童が、学校教育目標を言えるようになり、児童会でも学校教育目標実現に向け、学級や全校で取り組む活動が行われるようになった。学校説明会、学校教育推進会議、学校評価、学校報告会等も学校教育目標やその達成度について行うことで、教職員や保護者への浸透を図ることができた。学校組織の目指す方向性を明確にすることで、組織の風土が作られつつある。 ○国や市の学習状況調査、授業参観、学校評価アンケート等を有機的に関連付け、実効性のあるPDCAサイクルの構築を目指した。児童や保護者の意見を担当の教職員自身が分析することで、主体的に次年度の計画に活かすことができた。